

令和元年度第1回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 地域連携部会 会議録

日 時： 令和元年5月17日（金） 午後2時から3時50分

場 所： 鎌ヶ谷役所3階 303会議室

出席者：（敬称略）各チームリーダー

星野暁洋（障がい者の働くを支えるチーム）、渡辺 博（地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム）、上谷 豪（障がい者のつながりを支えるチーム）、高畑和幸（障がい分野の情報を発信・啓発するチーム）、福田弘子（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）、林 恵利（医療的ケア児支援チーム）

事務局：鎌ヶ谷市障がい福祉課 星野課長、遠藤課長補佐、星庶務係長、中村主査補、鈴木氏 鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお 渡辺、馬場、久保田

関係者：鎌ヶ谷市市民活動推進センタープロジェクトマネージャー 影山

傍聴者：1名

委員の出席者数と傍聴者数の報告

本日出席者7名、部会員全員出席のため、会議成立の定則数の過半数を超えている旨報告。

1. 地域連携部会の役割について

鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）の本会議のもとに専門部会として地域連携部会を設置し、その地域連携部会の中に6つのテーマ別チームを設けている。地域連携部会の目的としては、①ワークショップによる課題の収集とその整理による地域課題（テーマ）の設定。もうひとつが、②チーム間の調整と上部組織である本会議への提案議題の精査の2つに大別することができる。前者の地域課題の設定は年1回チーム編成を行うためのもので、本日の会議では後者の目的が中心になる。また本来であれば、協議会の正副会長も部会員となるが、現在協議会委員の委嘱手続中であり、正副会長が不在であるため本日の出席者が全ての部会員となる。また、部会長については、障がい福祉主管課長が務めることとなっているため、本日の会議の議事進行を行う。

2. 各テーマ別チームからの報告及び検討について

(1) 障がい者の働くを支えるチーム

チーム内において障がい者が働ける場所が少ないという課題を検討するAグループと、事業所で働く賃金（工賃）が低いという課題を検討するBグループとに分かれて検討している。Bグループでは、低賃金を解消するため下請け作業だけでなく、地域全体の便利屋事業を行うなど、地域を助けながら収益を上げていけるような方法について検討をしているが、まだ具体的な手法は定まっていない。市にも障害者優先調達法を使って生産活動のアシストをしてほしいと考えている。Aグループでは、就職に結びつけることが課題で、障がい者と障がい者の働ける場所とのマッチングが課題であると考えている。就職はしたが、本人の特性を十分理解してもらえず挫折してしまう人も多い。企業への合同説明会などを開催してはどうかという意見も出ているが、こちらも具体的な手法はまだ定まっていない。

(2) 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム

移動支援の有効活用に関して、ニーズを調べるためアンケートの実施を検討している。通学・通園が困難な人がどのくらいいて、どうしているのか調査していきたい。現在、アンケートの骨組みを検討している最中で、設問の内容、配布方法、実施時期などを考えている。アンケートによりどこにスポットを当てて、今後検討を進めていくのかを絞り込んでいきたいと考えている。

(3) 障がい者のつながりを支えるチーム

チームメンバーは児童、高齢、障がいの各分野からで構成されていて、法律も児童福祉法、介護保険法、障害者自立支援法と分かれている。「つながりを支える」とチーム名になっているが、助けてと言わないから助けない、知らないふりをする、というのではなく、どうつながっていくか検討していきたいと考えている。まず、各分野でどんな取組をしているか話し合い、分野を越えてつながれるためのフローチャートの作成も考えている。フローチャートについては、支援者から見たものがあるのか、家族からの相談に対するものがあるのか、メンバー個々に考えるものは違うと思うので、これから検討していきたいと考えている。

(4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

発信・啓発にあたり、まず自分たち支援者が当事者のことをわかっているのかとい

うところからスタートし、当事者と支援者の間のズレがあるのではないかという課題を見出した。実際、支援者の勝手な思い込みと、そのズレに対して支援者側から、啓発していく必要があると考えている。この「当事者の意思と支援者の思いがズレているかもしれないということを前提に支援することの大切さ」に気付いてもらうための研修会を開催したいと考えている。講師はまだ確定していないが候補としては当事者支援をしている方の名前が挙がっている。予算の関係もあるので、この研修を協議会で毎年行っている研修会として実施をお願いしたい。

(5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

政策課題の一つとして設定されたチームで、当法人（チームリーダーが属する法人）は県からも「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を受託している。県事業の取組として「協議の場の設置」というものがあり、この取組の鎌ヶ谷バージョンとして政策課題に入れていただいた。県事業の検討の場である、代表者会議、実務者会議とこのチームとで課題を共有していきたいと考えている。

チームでは、医療機関との連携の形について事例を通して検討していきたいと考えている。前回からは医療機関に地域と連携した成功事例を提供いただき、基幹相談支援センターの役割、委託事業所の役割、相談支援事業所の役割とは何なのかを考えている。最終的には検討した内容をフローチャートにまとめることができればよいと考えてる。

(6) 医療的ケア児支援チーム

チームメンバーは医療とのかかわりが少ない方々なので、それぞれの役割が分からないというのが目に見える課題である。医療的ケア児の支援という幅広いテーマの中で、どこにスポットを当てなければいけないか、今は福祉サービスも充実しているので就学期の問題は比較的少ないと思われるが、それ以前の乳幼児期の子供が心配でもある。ほとんどが医療とのかかわりのみになってしまい保護者の方が専任的にみている場合が多いと思う。

重度の医療的ケア児に対する障がい福祉サービスを受けるための利用計画を作れる事業所が少ないとか、計画を作っても保護者のニーズを満たせるだけのサービス事業所が市内にはないという話も出ている。まだ医療的ケアを受けている児童の状況について話を聴く機会を持っていないので、その機会を設け、何が課題かを明らかにする必要

があると考えている。今後、訪問介護ステーションで、医療的ケア児の支援を行なっている事業所の方に来ていただき、話を伺いたいと考えている。

■各チームへの質疑応答

チーム1 障がい者の働くを支えるチームに関して

- 障害福祉サービスの就労移行支援は、一般就労先とのマッチングをすることもサービスの内容だと思うが、それでもミスマッチが発生してしまっているということか。また、実態の調査は行ったのか。
- 障がい者の働ける場所が少ないという意見から検討を始めたが、ハローワークの方からは「障がい者の求人は意外とあり、働く場所が少ないという認識は違うのではないか」という指摘があった。この認識の違いはマッチングが上手くいっていないところからくるもので、その原因としては当事者の方の意識や、就労移行支援事業所の情報量や雇用先とのつながりなどの違いによって、成否が左右されるという意見もあった。今後、個々の事業所の工夫などを事業所間で共有する方法はないかなどの検討を行っていききたいと考えている。実態調査は行っていないが、検討の中で実施の必要性についても考えていきたい。
- 他市では、障害者就業・生活支援センターやハローワークと組んで問題に取り組んでいるところもあるが、鎌ヶ谷ではどうか。
- ハローワークの方には既にチームに所属していただいている。障害者就業・生活支援センターについても、チームの検討の中で存在を認識しているので、協力を依頼したいということであれば必要に応じて参加をお願いしたいと考えている。また、鎌ヶ谷市を含む習志野圏域の障害者就業・生活支援センターは「あかね園」になるが、平成31年4月から鎌ヶ谷市役所において障がい者の就労についての相談会を偶数月に1回実施している。
- 習志野圏域で言えば習志野市、八千代市はチャレンジドオフィスなどが立ち上がっている。取組についての調査を行うのも良いのではないか。
- チームの中では八千代市・習志野市などの取組についても話は出ているが、調査までには至っていない。調査の実施も含めて検討していきたい。

チーム2 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチームに関して

- 移動支援の報告について鎌ヶ谷市の要綱などは確認したのか。

→ 移動支援事業のガイドラインを確認している。地域の実情に応じて柔軟な事業形態とすることができる事業なので、まずは地域の実情を把握したいと考えている。どういう状況で、どのくらい的人数が困っているのかをアンケート調査したい。

チーム4 障がい分野の情報を発信・啓発するチームに関して

- 研修の内容について、「障害者差別解消法」の視点は入れないのか。
- 今回の研修内容に特段「障害者差別解消法」について盛り込む予定はないが、講師の話の中で「ズレ」というキーワードの中から「障害者差別解消法」についての内容が入ってくる可能性はあると思う。

チーム6 医療的ケア児支援チームに関して

- 医療的ケア児について平成30年度千葉県で実態調査を行い、その結果について希望すれば提供できるとの話があったが希望したか。
- 鎌ヶ谷市も結果の提供を希望しているが、まだ提供は受けていない。

■意見交換

チーム4 障がい分野の情報を発信・啓発するチームに関して

- 「自分たちがズレているかもしれない」というテーマで研修を行うことは、捉え方によっては日々の支援を否定することにもなりかねない。関係者から否定的な意見がでないかの心配もある。皆さんが賛成してくださるならぜひ開催したい。
- 地域連携部会として提案に賛同し、協議会へ提案することで承認した。

協議会の運営全体について

- 鎌ヶ谷市の協議会としてチームに何を求めているのか。方向性はあるのか。
- 平成30年度に専門部会の改編を行い、障がい分野に携わる方々に広くお集まりいただきワークショップを開催した。そこで、個々の課題を整理・集約して地域課題を設定した。この地域課題を具体的に検討するために、テーマ別チームを編成して現在検討いただいている。チームでの検討結果を基に協議会全体としての方向性も決めていくことになると思う。その意味で、テーマ別チームが検討の要である。改編後初めての年間運営なので、地域課題検討での問題だけでなく運営上の問題も出てくると思う。改編により

これまでよりも柔軟な組織体になっているので、運営していく中で、試行錯誤をしながらよりよい形を作って行ければと思う。

→ これまでの協議会は、何かアイデアがあったら、市に要望するというやり方が多く、それが実現しなければ、そこで終わってしまうというケースが多かったと思う。これからは、どうやるかを市も含めて、チームを中心に皆で検討していくというのが最大の目的である。チームの中で「協議会は何をするのか」という質問が出た場合などは、キックオフミーティングの際にお配りした『テーマ別チームって何だろう』の冊子も参考にしてもらいたい。

● テーマ別チームのメンバーの任期はいつまでか。

→ 任期は年度で区切ることになる。テーマ別チームも原則として年度ごとに見直すことを考えている。今回のテーマ別チームは平成30年度後半に発足したので、前年度からテーマを引き継いだが、令和元年度が終わる段階で1度区切らせていただく。当然、1年間の検討を踏まえたうえで、次年度はこういう部分に絞って検討したいとか、検討の中で新たな課題がでてきたので検討したいという場合もあると思う。そういった提案もできる形を取りたいとは考えている。それとは別に課題収集のためのワークショップを年1回開催して、そこで新たなテーマが出てくることもあると思う。テーマ別チームの編成については、地域連携部会で検討することになる。あくまでテーマがあって、それに合ったチームを編成するという順序としたい。

● 年間スケジュールはいつできるか。

→ 初めての運営で見えない部分も多く、ご心配をおかけしている。年間スケジュールを早急に作成し、お示ししたい。

■影山プロジェクトマネージャーからチームの運営についてのアドバイス

障がい分野に関わらず、支援者と被支援者のズレという課題が注目されている。ズレという視点はとても面白いと思う。また、事業の実施の仕方については、民間が主体、行政が主体、民間と行政が協働で行うものなど、色々パターンがあるので調べてみるとより深い検討ができると思う。また、検討が行き詰まったら他の地域の事例を調査するのもいいと思う。その事例が鎌ヶ谷にマッチしなければ、鎌ヶ谷流に変えるなどするといい。また、チームの中で調査する場合などは、メンバーで役割を分担して行ってもいいと思う。

3. 次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の議題について

次回協議会では、本日もご報告いただいた各チームの検討状況の報告、障がい分野の情報を発信・啓発するチームから研修会の提案のほか、協議会委員の方への委嘱状の交付、正副会長の選出、各チームからの報告、障がい福祉計画の平成30年度の実績値の報告などを行います。

→ 了承した。

4. その他

→ その他、議題なし。閉会。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和元年7月5日

氏名 高畑 和幸

氏名 渡辺 博